

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600096		
法人名	社会福祉法人 平和会		
事業所名	グループホーム うえのまち(東ユニット)		
所在地	岩手県北上市上野町1丁目7-1		
自己評価作成日	平成23年10月30日	評価結果市町村受理日	平成24年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390600096&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ありがとうございます。」を合言葉に、家庭的な雰囲気の中でご利用者様らしさを損なわないようなサービスの提供のもと、ご利用者様とともに生活しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.開所して間もなく家族の方から、同じ悩みを持つ家族の交流を望む声があり、早期に家族会が設立されて、家族会を中心に施設の行事などで活動していること。
2.運営に関する職員の意見を話せる雰囲気があり、研修への参加等は受けたい研修へ参加することが認められていること。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度の理念を継続し、食堂や事務室に掲げ、実践できるように努めている。	職員全員で「どんなホームにしたいか」を検討して策定され、事務室、食堂に掲示してある。全職員が理念を共有し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣を散歩し、挨拶をする程度からはじめている。日常的に交流するには至らないが、文化祭や夏祭り等でボランティアを地域の方々をお願いするようにしている。	町内会に加入して会費を納めているが、回覧板が、廻ってこないで、地域情報に乏しい。小規模多機能施設、グループホーム、高齢者専用賃貸住宅合同の文化祭では地域の方々の作品（写真、油絵、パッチワーク等）展示があった。	現在も行事等の時には、地域との交流が図られているが、今後、日常的に地域との交流が図られることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来られた方より相談をされた場合は、出来る範囲で認知症について話をしているが、地域の人々に向ける体制は整っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行い、行事報告やサービス利用状況について報告している。	家族会、地区長、包括支援センター等が委員となり積極的に意見交換が行われている。特に家族会からはホームの行事に積極的に協力したい意見が出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員と話をする程度である。	市内のケアマネ研修が2ヶ月に1回開催され積極的に参加している。申請の代行などで市役所を訪れた際などは情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、拘束廃止に向け取り組んでいる。職員の目が行き届かない時など施錠しているため、今後の検討事項に入りたいと考えている。	身体拘束委員会を設置し、マニュアルも作成している。研修を受けた職員がリーダーとなって内部研修を行っている。18時以降は防犯のために、玄関に施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員が中心となり、虐待について資料等配布し、勉強会を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム うえのまち

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前は必ずご利用者・家族様の不安や疑問点を尋ね、理解や納得していただけるよう努めている。また、その際に出てこなくてもサービス利用中に質問等があった場合はその都度答えられるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者や家族様より意見があった場合はPCへ打ち込み、施設全体の職員が共有できるようにしている。また、業務に反映できるようにしている。	隔月に家族会が開催されているので、意見・要望を聞いている。利用者からは、日常生活の中から意見や要望を汲み取り、業務日誌・申し送りノートなどで職員が情報を共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	第四木曜日に開催している職員会議の場で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、その意見に対し、その都度答えを出せるように努めている。	職員会議で意見・要望を話せる環境が出来ている。例えば震災の教訓から、それに備えてストーブを購入すること、職員が望む研修に出張で出れるようになったことなどがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、働き甲斐のあるように職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員と面談を行い、自己評価に基づき資質の向上に努めている他、外部評価を受講させ、他法人職員から情報収集して職員会議で報告し全職員で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH協会の定例会に参加を促し、情報を収集してサービスの向上につなげていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始時に担当者が、事前調査で本人が困っていること等を聞き、出来るだけ要望に沿えるよう努めている。また、サービス利用中も常に話を傾聴し、不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時、家族より一番困っていること事は何か？話を聞き要望を受け入れられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者・家族様より話を聞き、出来るだけ、支援できるよう体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共有するもの同士、協力できるような関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族様宛てに、ご利用者のご様子について職員より手紙を出しており、本人とご家族様の橋渡しとされるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に協力していただき、お正月、お盆の帰省案内をだし、馴染みのところへ出かける機会を持っているが、まだ、少人数の段階である。	お正月は3名、お盆は半分の方が自宅で過ごしてきた。馴染みの美容院へは家族の方が付き添って行っている。小規模多機能の日中(デイ)利用者で馴染みの方が面会していく例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の性格を把握し、孤立しないように職員が間に入り橋渡しできるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで利用終了となった場合については、病院側へ情報提供を行い、不穏時の対応について話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活でのコミュニケーション等で出来るだけ要望や意向の把握に努めている。	日常の利用者の言動から把握し、グループホームの介護職員会議録、業務日誌、申し送りノート等で各担当者からの情報を記すなどして、利用者の思いを共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、出来るだけ違和感のない生活を送っていただけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の基本情報を元に、現状の把握に努めている。また、担当職員より申し送り等で、情報を共有し統一したケアが出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用前の事前調査で、本人や家族より意向を伺い、介護計画に反映できるよう努めている。	日常生活の中からは家族会での要望などを受け、介護計画が策定されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録を作成し、日々の様子を記録している。また、部署会議等で各職員からの意見や情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様より本人に対してのケアの要望があった場合、出来るだけ要望に沿えるよう取り組んでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム うえのまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設での行事の際に地域の皆様にご協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族より要望があった場合は付き添い等をおこない、かかりつけ医との関係を築きながら適切な医療を受けられるように努めている。	利用前の医療機関へは家族の付き添いで受診している。2週間に1回は、訪問診療がある。また毎週、訪問看護も行われている。職員から看護師、看護師から主治医へと医療に関する情報が伝わるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者に状況の変化が見られる場合、その都度報告、相談している。定期的に来苑してもらい、日々の状態の把握ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院先へは情報提供を行い、安心して治療が出来るよう努めている。また、面会を行いその際、病院関係者と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族と話し合い今後どのようにしていくのか、GHで出来ること、出来ないこと等の説明を行い、方針を決め支援している。また、訪問看護等との連携を行い支援している。	看取った方が1名いらっしゃる。看取りの研修を実施して職員全員で重度化の対応を共有している。入浴設備も重度化を想定した設備となっている。延命等を望まない家族でも、重度化や終末期が迫ることでの気持ちの変化に伴う対応の難しさに苦慮することもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力病院のDrによる看取りの勉強会や消防署員による応急手当について勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	GH独自では、定期的に避難訓練を行っている。また、震度5以上には全職員が駆けつけるようマニュアルに基づき合同訓練をおこなっているが、地域の協力体制が整っていない。今後介護教室等を開催し、災害時の移動方法等の研修を行い、地域へ呼びかけていく。	2週間に1回の割合で避難訓練を実施している。スプリンクラーを設置している。地域消防団がないので、今後の検討事項としている。	災害時に地域の協力を得られるような体制構築に期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け1つ1つが大切であることを職員に伝え、それを踏まえて対応できるように努めている。また、身体拘束委員会で言葉遣いについて話し合い、皆に伝えている。	他人に知られたくない部分を生活歴や、日常生活の会話などから汲み取り、職員で情報を共有して接している。また、「言葉による拘束」もあるとの視点から職員間で、利用者に対する言葉遣いに注意することで利用者の人権に傷つけないことに配慮している。利用者一人ひとりのプライバシーを把握し、職員が共有しつつ、ケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来ない利用者に対しては、コミュニケーションのなかで、出来るだけ自己決定が出来るような声掛けをするように全職員が努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースにあわせ対応するように努めていはいるが、職員側の都合で一日を優先されることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際にどの服が良いか、本人に聞きその人らしい身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、個々の好みの把握に努めている。食事の盛り付け、片付けなど個々のレベルに合わせて行って頂いている。また、行事の際は食事やおやつ作りを行い、今後も台所の使用頻度を増やしていくよう取り組んでいく。	食事は法人の厨房で作っている。現在のユニットキッチンでは給湯や温める程度の利用である。食事をユニットキッチンで作るとなると職員へ負担が多くなるので現在検討中である。	グループホームの主旨(共に調理し、それを通し家庭的雰囲気と利用者の五感にうったえる大事な作用と利用者と職員が調理と食事を共にすること等)から、ホームのキッチンを利用することを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表にて、水分量や食事摂取量を記録に残し、把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後は必ず口腔ケアをして頂けるように声掛けや介助を行い、清潔を保つように努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム うえのまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用している方でも、必ずトイレ誘導を行い、トイレで排泄出来る様に努めている。	夜オムツ使用であった方が、リハビリパンツになったりなど改善した方がいる。排泄チェック表により個々の状況を確認している。排泄を定時に誘導している方もいる。自立支援に向けた取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や、運動量等で便秘改善に努めているが、便秘の日数が続いた場合は、薬に頼ってしまうこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望に沿って入浴していただけるように努めているが、施設側の都合で入浴の曜日を決めてしまう事がある。	隔日入浴である。一般浴槽と特殊浴槽を備え付けている。特浴利用の方は2つのユニットで8名いる。声掛けをしても強く拒否する方は、清拭での対応もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、対応し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服用している薬について、大まかではあるが把握しているものの、細かなところまでとはいかない。薬剤師より説明を受けPCIに打ち込み職員全体で共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操やレク活動を一日の中に取り入れ、出来るだけゲームなどに参加していただき楽しんでいただけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパーに出かけ、買い物支援を行ったり、ドライブへ行ったりしている。しかし、地域の方々の協力をしながら出かける体制は出来ていない。	事業所の花壇を見たり、家族と一緒に外出したりしている。天気の良い日は散歩や畑とか花だんの手入れなどもしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム うえのまち

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来るだけ、希望に応じお金を所持できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の絵手紙を作成し、家族へ送付している。また、家族への手紙のやり取りはあるが、定期的ではないため、今後の課題である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には出来るだけ、混乱を招くようなものは設置しないように努めている。また、壁に季節に関係するものを掲示し、出来る範囲で、季節感を出せるよう努めている。	食堂は自然に個々の席が決まったとのことである。職員が見やすい場所は管理している感じがあるが、故意に見えづらい所を作り、利用者がゆったりくつろげるように設計された場所がある。プライバシーを尊び利用者本位に考慮した造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に自分の好みの場所があり、気の合うもの同士話をしたり、相談をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力していただき、使い慣れた家具や仏壇などを持ってきていただいている。	ベット、タンス、小灯台は事業所の備え付けである。位牌やタンス、洋服ラック、家族の写真など馴染みの物を持ち込んでいる。テレビも2名の方が持ってきている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部署会議で利用者個々について話し合い、転倒しやすい方にはどのような対応が良いのか？また、安全に生活できるようにするにはどのようにしたら良いのか話し合っている。		